

# 令和元（2019）年度 学校自己評価報告書

学校法人 中島学園  
熊本歯科技術専門学校

---

# 目 次

I	学校の現況 .....	1
II	評価の基本方針 .....	2
III	本年度（令和元年度）の重点目標と達成計画 .....	3
IV	評価項目の達成および取り組み状況 .....	4
	1. 教育理念・目標・人材育成像 .....	4
	2. 学校運営 .....	5
	3. 教育活動・学修成果 .....	5
	4. 学生支援 .....	6
	5. 教育環境 .....	7
	6. 学生の受入れ募集 .....	8
	7. 財務 .....	8
	8. 法令等の遵守 .....	9
VI	学生アンケート結果（在校生および卒業生） .....	10

## I 学校の現況

### 1. 学校名

学校法人中島学園 熊本歯科技術専門学校

### 2. 所在地

〒860-0811 熊本県熊本市中央区本荘3丁目1-6

### 3. 沿革

明治36年2月7日 (1903年)	鎮西簿記学校創立 (熊本市北千反畑町)
明治42年4月 (1909年)	校名を「鎮西高等簿記学校」に改称
明治42年8月 (1909年)	熊本市2番被分町(現水道町)に校舎を新築移転
昭和24年4月 (1949年)	校名を「鎮西専門簿記学校」に改称、翌年、「鎮西簿記会計学校」に改称
昭和38年4月 (1963年)	校名を「鎮西商科専門学校」に改称
昭和44年4月 (1969年)	学校法人中島学園に組織変更、姉妹校として「熊本歯科技工専門学校」を開校
昭和52年4月 (1977年)	専修学校令により専門学校として発足
昭和53年4月 (1978年)	「熊本歯科技工専門学校」を「熊本歯科技術専門学校」に校名変更、新たに歯科衛生士科を併設
昭和59年4月 (1984年)	「鎮西商科専門学校」を「熊本情報経理専門学校」に校名変更
昭和63年9月 (1988年)	熊本市本荘町代継神社跡地に鉄筋4階建て校舎を新築移転
平成5年2月 (1993年)	学校創立90周年を迎える
平成15年2月 (2003年)	学校創立100周年を迎える
平成25年2月 (2013年)	学校創立110周年を迎える

### 4. 学科の構成

課程名	学科名	修業年限
医療専門課程	歯科技工士科	2年
医療専門課程	歯科衛生士科	3年

## 5. 学生数および教職員数（令和元年5月現在）

### 【学生数】

学科名	1年	2年	3年	合計
歯科技工士科	22	17		39
歯科衛生士科	37	22	25	84

### 【教職員数】

校長	学園長	副校長	教員	事務・広報
1名	1名	1名	10名	4名

## 6. 施設の概要

- 1階・・・玄関ロビー、事務室、学園長室兼応接室、コンピュータ室〔2〕、実習室〔2〕
- 2階・・・校長室兼広報企画室、職員室、応接室、保健室、普通教室〔5〕、  
ロッカー室兼更衣室、学生ホール
- 3階・・・職員室、図書室、実習室〔2〕、普通教室、学生ホール、鑄造研磨室、デモ室、  
ポーセレン室、歯科理工学検査室、ロッカー兼更衣室〔2〕
- 4階・・・講堂、倉庫、標本室、普通教室

## II 評価の基本方針

### 1. 学校の教育理念、教育目標

本校は、「即戦力となり、周りにプラスの影響を与える人材の育成」のため、時代の流れに即した知識・技術の「実学教育」はもとより、人間性豊かで社会に的確に順応できる「人間教育」にも重点をおいて教育を行っている。

#### 【教育理念】

高い技術力と人間力を兼ね備え、感謝とチャレンジ精神を持って歯と口から地域の人々の健康に貢献する歯科医療従事者を育成する。

#### 【教育目標】

- (1) 必要となる基本的知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。
- (2) コミュニケーション能力を向上させ、高い倫理観を持ったチーム医療の一員として協調・協働できる能力を養う。
- (3) 歯科医療現場で起こりうる問題に対して、素早く解決力・創造力を発揮して対応できる能力を養う。
- (4) 生涯にわたり自らに目標を設定し、最新の知識・技術を学ぶ意欲を持ち、全力で取り組む能力を養う。

### Ⅲ 本年度（令和元年度）の重点目標と達成計画

#### 1. 教育活動

##### (1) CAD/CAMシステムの講義・実習

デジタル化の進歩に伴い、歯科技工士科ではCADを導入し令和2年度より専門機関とタイアップした体系的な授業の開始を目標に、歯科業界の最新技術の習得を目指す。

##### (2) 歯科衛生士科「男女共学化」

令和2年度より歯科医療の現場では男性歯科衛生士のニーズが高まり、その活躍の場も広がっているため、男性歯科衛生士の養成に向けた制度導入に取り組む。

##### (3) 国家試験対策

国家試験対策をシステム化し、早い段階から開始することで、高い合格率を目指す。計画的な対策と個別指導を充実させることで、多角的に合格までをサポートし、国家試験合格100%を目指す。

##### (4) 中途退学者の減少

クラス担任を軸に専任教員も含めたサポート体制を充実させる。指導方針を教員間で共有する取り組みを目標とする。またホームルームや個別面談を定期的に行い、学生個々の状況把握を行い、保護者と連携をとりながら退学者0を目指す。

##### (5) 入学生の確保

平成30年度に新設した「広報企画室」の活動を見直し、効果的な活動およびに歯科技工士・歯科衛生士そして学校としての認知度を上げる取り組みを行うことを計画している。入学定員充足率80%を目指す。

本年度行う広報活動は以下の通りである。

- ① ホームページのリニューアルに伴い、ブログ更新回数の増加と内容の充実。
- ② 学校訪問については、回数を増やし、10月まで重点的に実施する。
- ③ ガイダンス等への積極的な参加。
- ④ オープンキャンパス日程の見直し。新しい試みとして「保護者対象進学相談会、ナイトオープンキャンパス」を実施。
- ⑤ 歯科関係団体との連携を昨年度同様の内容で継続して実施。
- ⑥ 社会人の応募者に対するサポートを充実させるため、「専門実践教育訓練給付制度」の指定講座を目指す。

##### (6) 経営の効率化

経費節減のためペーパーレス意識の強化を図る。学内ネットワークを利用し、情報の共有・協働の見える化を実施する。

## IV 評価項目の達成および取り組み状況

### 1. 教育理念・目標・人材育成像

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教育理念・教育目標・育成人材像は明確に定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色を打ち出し、実践しているか	3
3	教育理念・教育目標は教職員・学生に対して周知されているか	3
4	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### (1) 現状と課題

- ① 学校の理念・教育目的・育成人材像については、概ね適切に共有されている。
- ② 学生、保護者には、学生便覧・学則を配布し周知をしている。更にホームページで、歯科技工士・歯科衛生士の現状や将来像等を挙げている。
- ③ 課題としては、少子高齢化社会にあつて医療従事者は必要とされているにも関わらず、若年従事者は慢性的に不足している。この不足に対して医療福祉の専門職教育機関として、入学生が安定確保できるよう専門分野の特性を明確にし、職業教育としての特色の定めをより一層打ち出す必要がある。

#### (2) 今後の改善方策

- ① 各学科の卒業後を含めた人材育成に向けて情報を収集し、卒業後の在職状況、知識・技術ニーズの把握に努める。
- ② 歯科衛生士科においては、実習機関巡回の機会を生かし関係団体と密接に情報交換を行い、連携を保つ。
- ③ 学校の使命・教育目的に沿ったアドミッションポリシーを定めて、明確化する。アドミッションポリシーの周知は、本校ホームページの他、学校案内、学生便覧、オープンキャンパス等を通じて明示する。

#### 【本校におけるアドミッションポリシー】

教育目標の達成に向けて次のような人を求めます。

- ・人に対する関心や思いやり、感謝の気持ちを持つことができる人。
- ・自分の考えや思いを表現でき、他者と強調できる人。
- ・熊本歯科技術専門学校で勉学することを強く望み、かつ歯科技工士・歯科衛生士を目指す明確な意志を持っている人。
- ・誠実で責任感のある行動がとれる人。
- ・探求心・チャレンジ精神を持ち、自ら学習し続ける意欲のある人。

## 2. 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	目的・目標等にあった学校運営方針が策定され、また各種諸規定・規則等の整備がなされているか	3
2	運営組織や意思決定機関は、有効かつ効率的に機能しているか	3
3	人事・給与等に関する制度は整備されているか	3
4	教育活動に関する情報公開が適切に行われているか	4
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### (1) 現状と課題

- ① 学校運営については、ほぼ適切に実施されている。
- ② 就業規則をはじめとする諸規程は整備され、定期的な見直しも行われている。
- ③ 学校自己評価は公開され、ホームページにて学校紹介・学校活動・学生の動向等の情報も発信している。

### (2) 今後の改善方策

- ① 年2回実施している学生アンケートをWEB化し、入力および集計作業を簡略化する。
- ② 学内ネットワークを利用し、手作業で行っている部分を減らし、作業効率をアップさせる。それと同時に、教職員のスキルアップを目指し、学生サービス向上に繋げる。

## 3. 教育活動・学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教育理念・教育目標の沿ったカリキュラムが策定されているか	4
2	1に示すカリキュラムは定期的な見直しがなされているか	4
3	カリキュラムは教職員および学生に周知されているか	4
4	授業に対する評価・点検の体制および実施がなされているか	3
5	成績評価・進級・卒業の基準は明確であるか	3
6	国家試験合格率の目標を設定するとともに、取得向上に向けての取り組みが図られているか	4
7	退学率の低減が図られているか、また低減に向けての取り組みは教職員間で共有されているか	3
8	就職率の向上が図られているか	3

#### (1) 現状と課題

- ① 学生の学習力やコミュニケーション力の低下が発信力・表現力にとどまらず聴取力・読解力不足まで顕在化しているため、国試受験指導に改善工夫が必要である。
- ② 先端的な知識・技能等を習得するための研修等については、メーカー等のインストラクターに依頼し教員の指導力育成、学生の技術力向上のための取組みを行なっている。
- ③ 関連企業と連携したキャリア教育等について、概ね適正に実施されている。
- ④ 就職担当は主に担任が支援を行っているが、就職活動時期の集中時には、きめ細かな対応が難しい場合もある。
- ⑤ 退学防止の取組みについては、教職員間で共有されている。しかし退学者が毎年出ており、指導体制の工夫、改善もさらに検討していく必要がある。

令和元年度退学者：歯科技工士科 7.7% (3/39 名)、歯科衛生士科 1.2% (1/85 名)

#### (2) 今後の改善方策

- ① 国家試験合格率は、両科とも 100%の目標を定めているが、2019 年度国家試験合格率：歯科技工士科 94.1% (16/17 名)、歯科衛生士科 95.8% (23/24 名) であり、年間計画を見直し、まずは模擬試験の結果に対する反省とやり直しの徹底を行う。
- ② 個別管理システムの構築により、弱点克服対策を強化する必要がある。
- ③ 退学者 0 名を目標に掲げ、指導体制の工夫、初年度教育の工夫等の対策を講じているが、引き続きさらなる工夫が求められる。
- ④ 現在の就職率は 100%であるが、在学中に職業理解をより深め、異業種への就職を減らす工夫を行う。また、卒業生の在職状況を把握し、離職率を下げる働きを行いつつ、歯科技工士・歯科衛生士という専門性を生かし、業界の認知度を高めていけるよう更なる工夫・努力を続ける。

### 4. 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	進路（就職）および学生生活に関する相談・カウンセリングに関する体制が整備され、潤滑な運営が定期的に行われているか	3
2	奨学金等の経済的支援制度が整備され、支給から返還までの手続きが確立されているか	4
3	健康管理についての指導および支援の体制は整っているか	3
4	不慮の事故など、在学中の学生生活に係る災害に対して、保険に加入しているか	4
5	保護者との連携（情報提供等）がなされているか	3
6	卒業生に対しての支援体制があるか	3



(1) 現状と課題

- ① 本校独自の奨学金制度はないが、「入学特待制度」を新設。さらに「卒業生子女・兄弟・姉妹入学者制度」、「専門実践教育訓練給付制度」等も設けている。また、日本学生支援機構の奨学金を募集から返還まで、一連の手続きは確立し、運用できている。
- ② 感染症（B型肝炎・インフルエンザ等）の予防接種の実施、健康管理に努めている。
- ③ 入学時に学生保険に全員加入する。
- ④ ハローワークより職業紹介業務の認可を受けており、就職支援体制は整っている。
- ⑤ 学年担任制をとっており、学生の相談には親身に取り組んでいる。また必要に応じて教務会議等を随時行い、情報の共有が図られている。
- ⑥ 既卒者求人依頼にも常時対応している。

(2) 今後の改善方策

- ① 相談室の確保は、空いている教室を活用しており、いつでも対応可能な相談しやすい環境づくりが求められる。
- ② 入学生のみならず、在校生に対する更なる経済的支援対策が求められる。
- ③ ネット環境の整備。（館内のFree Wi-Fi環境の整備。）
- ④ 売店、お弁当販売などの充実。

5. 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教室・実習室等は、室数・広さともに教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
2	学生が実習等を行う上で、教室を含めた諸施設を提供（開放）しているか	3
3	休憩室等のスペースが置かれているか	3
4	防災に対する設備・非常時の体制は整備されているか	3

(1) 現状と課題

- ① コンピュータ室の環境整備を実施。ただし、開放時間に制限（8：30～17：00）がある。
- ② 防災点検も法令に基づいて実施している。毎年6月に防災訓練を実施。
- ③ 教室、実習室等の清掃は十分行っているが、老朽化が進んでいる。

(2) 今後の改善方策

- ① 今後は設備面のリニューアルが必要である。
- ② 機器、用具は学習に支障のないよう日頃の点検を怠らず、年度末の備品チェックとともに定期的なメンテナンスを受けるなど早期に対応する。
- ③ いかなる状況下においても授業等を実施するため、ネット環境の整備とともにオンライン授業（リモート授業）の実施へ向けての体制づくりが急務である。

## 6. 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	学生募集計画を策定し、適宜実施されているか	4
2	学校案内・募集要項の内容は志願者が必要とする内容が掲載され、かつ内容は適切なものになっているか	4
3	学生募集に対する対応等、体制は整っているか	4
4	オープンキャンパス・体験入学の回数や時期、また実施する内容は参加者（志願者）が学校を把握するに十分なものとなっているか	4
5	志願者状況はどうか、また定員充足率は満足できるものであるか	2

### (1) 現状と課題

- ① 学生の受入れ募集については、適切に実施されている。
- ② 広報に関して、年間スケジュールを計画し、高校訪問、関連団体へポスター掲示依頼、進学ガイダンスへの参加、進学雑誌への掲載、ホームページの充実ができています。
- ③ 高校訪問の際、本校の特色、教育成果である資格取得状況（国家試験合格率）および就職状況について伝えている。

### (2) 今後の改善方策

- ① ITを活用した募集活動の検討。ホームページの運用の充実。
- ② 県内を中心とした進路ガイダンスへの参加を増やし、更なる募集活動の幅を広げる。
- ③ 出願者は、未だ定員を下回っているため、入学定員充足率 80%を目指し取り組んでいく。

## 7. 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	2

### (1) 現状と課題

- ① 毎年度初めに予算を作成し、それに従って実行している。
- ② 学園（法人）監査による監査を適正に実施している。
- ③ 広報活動費、校舎の維持管理費等、必要経費の予算確保が必要となる。

(2) 今後の改善方策

- ① 財務情報公開の体制整備は整っているが、公開へ向けて検討する。

8. 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	法令・専修学校設置基準の遵守がなされているか	4
2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

(1) 現状と課題

- ① 法令等を遵守し、適正な運営が行われている。  
② 個人情報を含めたデータ管理についてのセキュリティ対策は万全の態勢で取り組んでいる。

(2) 今後の改善方策

- ① 学校評価委員会を開催し、問題点に関する検討・改善に努める。

## VI 学生アンケート結果（在校生および卒業生）

### 1. 在校生アンケート（2019年10月実施）

回収率は、歯科技工士科（DT）・歯科衛生士科（DH）ともに100%（直接回収）である。

3.00を下回らない評価が1つの目安となる。

質問番号	4段階評価（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）	DT1年	DT2年	DH1年	DH2年	DH3年	全体平均
(1)	学校は基本的な生活習慣が身につくように指導を行った。	3.68	3.59	3.70	3.50	3.21	3.55
(2)	学校は社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	3.68	3.71	3.84	3.73	3.29	3.66
(3)	学校は専門職としての職業観を育成する教育を行った。	3.91	3.82	3.73	3.59	3.13	3.63
(4)	教員は適切な教材（プリント等の補助教材含む）を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	3.55	3.65	3.68	3.14	2.96	3.41
(5)	教員は就職して即実践に役立つ専門性のある指導（技術的指導も含む）を行った。	3.73	3.82	3.62	3.36	3.04	3.51
(6)	教員は授業への出席や欠席、遅刻に対する指導を行った。	3.59	3.71	3.76	3.14	3.08	3.48
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った。	3.77	3.65	3.70	3.14	3.08	3.48
(8)	教員はわからない点（提出課題なども含む）は個別対応などで粘り強く、適切に指導を行った。	3.68	3.76	3.43	2.95	2.96	3.34
(9)	成績不振者への指導・支援が十分に行われていた。	3.82	3.53	3.62	3.09	3.17	3.46
(10)	教員は公平かつ正確な成績評価を行った。	3.73	3.47	3.54	3.18	3.00	3.39
(11)	学校（教員）・保護者・学生との間で、学校生活（成績・出席状況なども含む）の様子が文書・電話等を通じて共有されていた。	3.91	3.24	3.16	2.95	3.08	3.25
(12)	国家資格（認定資格含む）取得に対する指導体制は整備され、機能していた。	3.82	3.35	3.62	2.95	3.04	3.39
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた。	3.73	3.53	3.46	2.91	2.96	3.32
(14)	学校は、奨学金・校納金などの手続き及び問い合わせに対して、分かりやすい説明がなされていた。	3.68	3.18	3.51	3.14	2.96	3.32
(15)	学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた。	3.73	3.53	3.62	3.18	2.96	3.42
(16)	学校は、窓口における事務手続きや電話対応など、気持ちの良い対応ができていた。	3.64	3.53	3.68	3.41	3.08	3.48
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた。	3.86	3.59	3.76	3.00	3.00	3.47
(18)	この学校に入学して良かったと思う。	3.59	3.59	3.38	3.05	2.75	3.26
		<b>3.73</b>	<b>3.57</b>	<b>3.60</b>	<b>3.19</b>	<b>3.04</b>	<b>3.43</b>

## 2. 在校生アンケート（2020年3月実施）

回収率は、歯科技工士科（DT）1年 68.4%、歯科衛生士科（DH）1年 100%、歯科衛生士科（DH）2年 81.8%、全体として 87.2%である。（アンケート回収ボックスにて回収）

3.00 を下回らない評価が1つの目安となる。

質問番号	4段階評価（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）	DT1年	DH1年	DH2年	全体平均
(1)	学校は基本的な生活習慣が身につくように指導を行った。	3.62	3.68	3.17	3.53
(2)	学校は社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	3.69	3.81	3.28	3.65
(3)	学校は専門職としての職業観を育成する教育を行った。	3.85	3.68	3.50	3.66
(4)	教員は適切な教材（プリント等の補助教材含む）を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	3.85	3.43	3.22	3.46
(5)	教員は就職して即実践に役立つ専門性のある指導（技術的指導も含む）を行った。	3.38	3.51	3.28	3.43
(6)	教員は授業への出席や欠席、遅刻に対しての指導を行った。	3.77	3.65	3.00	3.50
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った。	3.54	3.46	2.83	3.31
(8)	教員はわからない点（提出課題なども含む）は個別対応などで粘り強く、適切に指導を行った。	3.62	3.43	2.89	3.32
(9)	成績不振者への指導・支援が十分に行われていた。	3.46	3.41	2.83	3.26
(10)	教員は公平かつ正確な成績評価を行った。	3.69	3.38	2.83	3.29
(11)	学校（教員）・保護者・学生との間で、学校生活（成績・出席状況なども含む）の様子が文書・電話等を通じて共有されていた。	3.69	3.65	3.28	3.56
(12)	国家資格取得に対する指導体制は整備され、機能していた。	3.46	3.51	3.17	3.41
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた。	3.54	3.57	2.89	3.38
(14)	学校は、奨学金・校納金などの手続き及び問い合わせに対して、分かりやすい説明がなされていた。	3.62	3.43	2.94	3.34
(15)	学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた。	3.62	3.54	2.78	3.35
(16)	学校は、窓口における事務手続きや電話応対など、気持ちの良い対応ができていた。	3.54	3.68	3.22	3.53
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた。	3.31	3.68	2.89	3.40
(18)	この学校に入学して良かったと思う。	3.69	3.22	3.06	3.26
		<b>3.61</b>	<b>3.54</b>	<b>3.06</b>	<b>3.42</b>

### 3. 卒業生アンケート（2020年3月実施）

回収率は、歯科技工士科（DT）70.6%、歯科衛生士科（DH）54.2%、全体として61.0%（郵送にて回収）である。

4.00を下回らない評価が1つの目安となる。

「どちらでもない…3」以下の評価が多い傾向にあることが分かる。

質問番号	5段階評価（適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや適切…2、不適切…1）	DT科	DH科	全体平均
(1)	学校は基本的な生活習慣が身につくように指導を行った。	4.50	4.46	4.48
(2)	学校は社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	4.58	4.69	4.64
(3)	学校は専門職としての職業観を育成する教育を行った。	4.83	4.54	4.68
(4)	教員は適切な教材（プリント等の補助教材含む）を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	4.83	4.08	4.44
(5)	教員は就職して即実践に役立つ専門性のある指導（技術的指導も含む）を行った。	4.83	4.31	4.56
(6)	教員は授業への出席や欠席、遅刻に対しての指導を行った。	4.83	3.38	4.08
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った。	4.75	3.54	4.12
(8)	教員はわからない点（提出課題なども含む）は個別対応などで粘り強く、適切に指導を行った。	4.83	4.31	4.56
(9)	成績不振者への指導・支援が十分に行われていた。	4.83	4.00	4.40
(10)	教員は公平かつ正確な成績評価を行った。	4.75	3.92	4.32
(11)	学校（教員）・保護者・学生との間で、学校生活（成績・出席状況なども含む）の様子が文書・電話などを通じて共有されていた。	4.67	4.00	4.32
(12)	国家資格（認定資格含む）取得に対する指導体制は整備され、機能していた。	4.75	4.38	4.56
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた。	4.75	4.46	4.60
(14)	学生の経済的側面に対する支援が整備されていた。	4.58	4.23	4.40
(15)	学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた。	4.58	4.15	4.36
(16)	学校の施設は清潔でよく整備されていた。	4.75	4.31	4.52
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた。	4.33	4.31	4.32
(18)	この学校に入学して良かったと思う。	4.75	4.69	4.72
		4.71	4.21	4.45

#### 4. 卒業生保護者アンケート（2020年3月実施）

回収率は、歯科技工士科（DT）70.6%、歯科衛生士科（DH）54.2%、全体として61.0%（郵送にて回収）である。

4.00を下回らない評価が1つの目安となる。

「どちらでもない…3」以下の評価が多い傾向にあることが分かる。

質問番号	5段階評価（適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや適切…2、不適切…1）	DT科	DH科	全体平均
(1)	学校は基本的な生活習慣が身につくように指導を行った。	4.08	4.23	4.16
(2)	学校は社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	4.50	3.92	4.20
(3)	学校は専門職としての職業観を育成する教育を行った。	4.67	4.62	4.64
(4)	教員は適切な教材（プリント等の補助教材含む）を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	4.50	4.38	4.44
(5)	教員は就職して即実践に役立つ専門性のある指導（技術的指導も含む）を行った。	4.67	4.15	4.40
(6)	教員は授業への出席や欠席、遅刻に対しての指導を行った。	4.58	4.38	4.48
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った。	4.42	4.54	4.48
(8)	教員はわからない点（提出課題なども含む）は個別対応などで粘り強く、適切に指導を行った。	4.50	4.31	4.40
(9)	成績不振者への指導・支援が十分に行われていた。	4.50	4.46	4.48
(10)	教員は公平かつ正確な成績評価を行った。	4.75	4.38	4.56
(11)	学校（教員）・保護者・学生との間で、学校生活（成績・出席状況なども含む）の様子が文書・電話等などを通じて共有されていた。	4.33	4.08	4.20
(12)	国家資格（認定資格含む）取得に対する指導体制は整備され、機能していた。	4.33	4.69	4.52
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた。	4.58	4.00	4.28
(14)	学生の経済的側面に対する支援が整備されていた。	4.67	4.15	4.40
(15)	学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた。	4.58	4.15	4.36
(16)	学校の施設は清潔でよく整備されていた。	4.42	3.77	4.08
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた。	4.42	3.69	4.04
(18)	この学校に入学して良かったと思う。	4.75	4.77	4.76
		<b>4.51</b>	<b>4.26</b>	<b>4.38</b>